

PMによる研究開発プログラムのマネジメント

- ✓ レビュー会等を通じ、各PMに対しImPACTの主旨に沿った、従来にない新しい取り組みへの挑戦を奨励。
- ✓ PMの個性や実施内容の特性に応じた特徴ある研究開発プログラムの作成とマネジメント。

○マネジメント方法

- ・ 従来型の研究開発チーム編成に陥らないよう、競争と協調を促す体制を構築

⇒企業・大学のマトリックス型チーム、ステージゲート方式 などの試み

○出口戦略

- ・ 将来の実用化を見据えた産業界との連携・マッチングなどに配慮

⇒応用先のニーズに合わせた目標設定、コンセプトモデル製作により見える形で成果を提示 など

○利益相反

- ・ 形式的な関係性の有無にこだわらず、必要性・合理性・妥当性の観点から説明を求め、イノベーション創出に資するものであるかを柔軟に判断

○知的財産の取扱い

- ・ 参加機関が保有するバックグラウンドIPの取扱いなど、実施規約策定において、困難な意見調整を実施

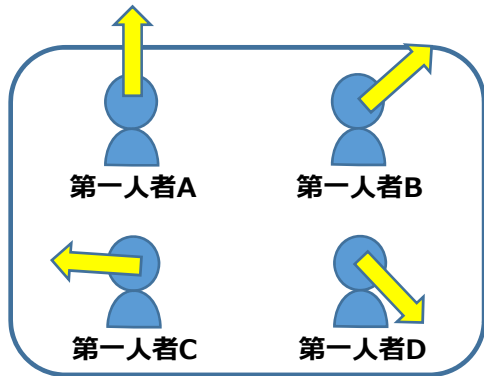
○良いマネジメント（例）

<p>バックキャスト</p>	<p>開発 素材メーカー 要求 最終製品メーカー 実証 提供 参加・協力 研究者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画段階から、ユーザや最終製品メーカー等をチームに巻き込んで、研究目標設定や仕様策定に関与 ・実証的試験評価により、ユーザに対し目に見える形で有効性を証明
<p>マネジメント方法</p>	<p>ステージゲート方式</p> <p>明確な目標と要求 厳格な評価 取捨選別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PMは、研究者に対して明確な目標や要求を示し、厳格に達成状況を管理 ・一つの要素に対して異なるアプローチを競い合わせるなど、従来にないマネジメント手法を導入
<p>チーム編成</p>	<p>マトリクス型組織による企業・大学のマッチング</p> <p>展開先① (A社) 展開先② (B社) 展開先③ (C社)</p> <p>技術Ⅰ (X大学) 技術Ⅱ (Y大学) 技術Ⅲ (Z大学)</p> <p>All JAPAN 競業関係を問わず適材適所のメンバー選定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の実用化・製品化を見据え、成果の展開先となる企業を軸としてチームを構成 ・従来の固定的な協力関係の枠を超えて、目的や機能に応じて柔軟に研究チームを編成

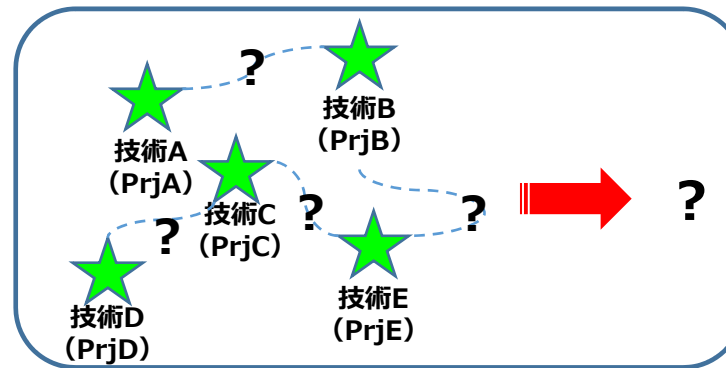
○悪い研究開発プログラム（例）

○プログラムが分野・領域型・総花的（バラマキ型）

- ✓ all Japanの名の下、研究者を集めただけで、目的を共有できていない。
- ✓ 個々の研究要素がどのように繋がっていくかが不明確。



見ている方向がバラバラ



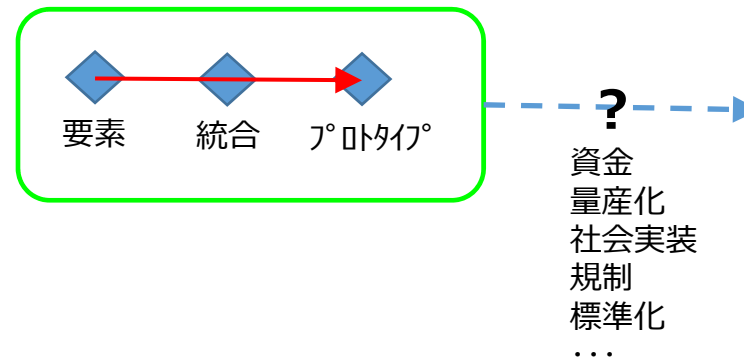
技術領域、分野
(成果にどのように繋がるのか不明)

○出口戦略が不十分

- ✓ 出口からのバックキャストिंगではなく、シーズ主導のプログラム構成。
- ✓ どのように社会実装・産業化していくかが不明確（戦略・手法・資金等）。



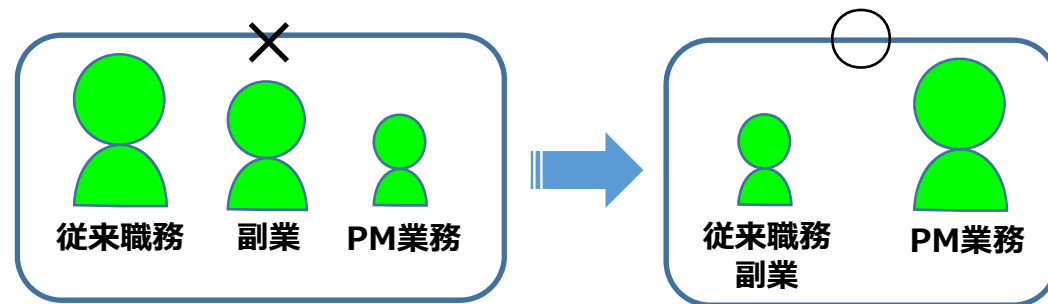
シーズとしては魅力的であるが、
明確な出口がない



○悪いマネジメント（例）

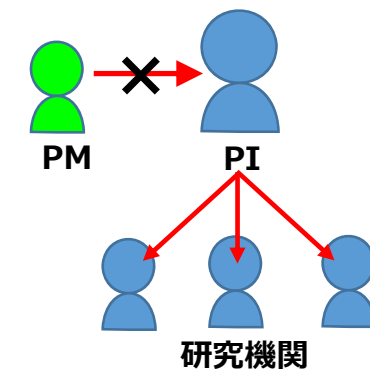
○プログラム・マネージャーとしての役割理解が不十分

- ✓ PM業に十分な活動時間が割かれない。
- ✓ 従来から実施してきた研究や副業などにウエイトが置かれる。
- ✓ 従来型活動スタイルから脱却できない。
- ✓ 元の活動拠点のまま活動を継続。
- ✓ PMではなく研究者的。
- ✓ プログラム実施体制など、PMが十分なマネジメント力を発揮できる体制にない。
- ✓ プログラムの推進がPI中心で行われており、PMが主体的に運営できない。

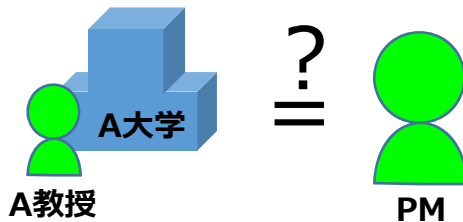


PM業よりも従来職務・副業のウエイトが大きい

PMのエフォートは80%以上！



PMがマネジメントできていない



従来型活動スタイルから脱却できていない

アウトリーチ活動

○ImPACTキックオフ・フォーラム

- ・ ImPACTの意義やユニークさをアピールするとともに、12名のPMとプログラムを紹介し、ImPACTのスタートを周知する。

日時：平成27年3月24日（火） 13：30～19：30

場所：丸ビルホール（丸の内）

対象・規模：高校生～大学人～社会人 300人程度

主なコンテンツ		
第一部	PMとプログラム紹介	ビデオ映像を用いてそれぞれ1分程度で簡潔に紹介
	トークセッション	成功に向けどのような運営をすべきか討議（4PM+ゲスト）
	講演	社会的課題に直結する3プログラム程度についてPMが講演
	クロスディスカッション	非連続イノベーション創出や科学技術の未来等について意見交換（PM、学識経験者、ジャーナリスト、一般参加者）
	パネル展示・ビデオ上映	ロビーで展示や冊子配布等によりプログラムを説明
第二部	座談会	PMごとに希望者（4名程度）を募り直接対話

○ImPACT広報ビデオ（ウェブ配信、キックオフ・フォーラムにおいても使用）

- ・ 制度紹介用（大臣インタビュー、有識者議員インタビュー、制度説明、各PMコメント）
- ・ 各プログラム紹介用（プログラムの意義や達成目標、PMの人となり）